



たまへ

所に心解けて寝ぬるものか。惟光朝臣來たりつらど井「と問はせ

二三

三

→英の「21 水銀電池23→多孔性の銀の電極上に水銀を塗り、これを深く

光源氏(君) 17. 院の預かりの若者(光源氏の従者)
惟光(光源氏の乳兄弟第一)

19. 頭
20. 藤壺
21. 王
22. 右近(タ頭の女房)

題中舉 23

うたのひはなづか。」とお導ねにけりす」と、惟光の朝臣が来て

『隨身も弓の弦を鳴らして、絶えず声を出せ』と命じる。こんな人気つけ

人の子が返事をして起きてきました。「紙燭に火をつけて持つて来い。

この問題は、源氏の書がお手でにめります。管理

氏の君が親しく使つていらっしゃる若者と、殿上童が一人、そして

國が少く吹いていたり、宿直の者は少く、お仕えしている者は全く寝入っておりません。この邸の管理人の子で、日々から源

「私は誰が好きかを言つて。手を貰へて口で謝はれてからと
思はれて、『私は誰が好きかを言つて』。」

「アーヴィング、お前がアーヴィングだ。アーヴィングの娘の子でアーヴィングの孫であることを知らなかったのか？」

厭坂東志義

夕顔